

---

# 三題噺～雲、アルバム、人口の遊び

八月一日

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

三題嚙々雲、アルバム、人口の遊び

### 【Nコード】

N4572P

### 【作者名】

八月一日

### 【あらすじ】

「いつてきます」

その一言で私は、雲の上から飛び降りた。

「なあ、暇。超暇。なんかやれ」

「てめえ、飯にも神だろ。雲上人だろ。下見てろよ」

「見てるって。こうして適度に入減らしたり増やしたりしてるでしよ」

とはいってもすごい目分量でやってるけど。あ……。

「あつて、てめえッ！！それ減らしすぎだろッ！！」

「すぐ増やすから大丈夫だつて」

そしてまた目分量。

「人口で遊ぶのやめろっていつも言ってるだろ！ 記録すんのめんどうなんだよ」

「それがカイの仕事でしょ」

「はいはい。偉そうなシアは神やってりやいいんだもん。楽なもんだ」

楽じゃないっての。いつもいつも下見てないといけないし。というか飽きた。

「そうだ……カイ」

「なんだよ」

「いつてきます」

「はぁッ！？ ちよ、まてやコラァッ！！！！」

寝転がっていた雲から華麗に飛び降りる。

「すぐ戻るって……たぶん」

[illegible]

.	.	.
o	o	o
.	.	.
:	:	:
*	*	*
.	.	.
o	.	:
o	o	o
.	o	.
*	.	.
*	*	o
.	:	:
o	:	:
o	o	*
.	.	.
*	.	*
:	o	:
.	:	o
o	:	.
.	*	*
o	.	:
:	:	o
*	.	.
:	:	:
.	.	.
.	*	.
o	.	o
:	.	.
*	*	.
.	:	o
.	:	.
.	.	.

「ふう」

雲から飛び降りてしばらく飛んだ所にあつた建物の屋上に降りた。

「どうだろう、どうだろう」

あたりを見渡しても、特に目立つものはない。

「お、あれは」

木の下に若い男女。えーと、たしか学生だっけ？ てかあの感じは……。

「いってみますか」

屋上から飛び降りて、二人が見える位置で止まる。

「俺と、付き合ってください」

「……ごめんなさい」

ありや、振られた。振った女の子の方は結構可愛い。

「はあ」

「なに溜息ついてんの？」

「うわぁ……羽？」

おお、いい反応。近くで見るとなお可愛い。

「ま、糸は出てもないし繋がってもないから当然といえば当然の結果だったけど」

「だ、誰？」

「え？ 神」

「……」

「あー、疑ってるでしょ」

「や、そんなことは」

「えーと、神崎由愛……かんざきゆめ由愛が好きなのは……マジ？ 由愛って女の子好きなの？」

うひゃー、こっちにもいんだねー。

「なんで名前……というか、誰が好きでもいいでしょ」

「まあ、別にいいけどさ。ということは、そっち方面で視なおしたら……」

由愛から出て繋がってる糸は……いた。

「東雲未咲しのめみさきか。何、好きなの？」

「東雲つて、隣のクラスの子だけど。それ以外は知らない」  
「ふーん……」

あっちが由愛のこと好きなのかな。

「東雲さんがどうかしたの」

「うんにゃ。由愛が告白したら確実に付き合える子ってだけ」

「東雲さんが？」

まあ、そのあと散々煽るだけ煽ったんだけど。

「付き合って」

「……うんっ」

おお、抱き合ってる。というか東雲って子も可愛い。

「暇も潰せたし、帰ろっかな」

羽をはたかせて宙に舞い上がる。

「ん？」

なんか視線を感じると思ったら、由愛がこっちを見て手を振ってた。東雲って子もこっちみてる。

「ま、お幸せに」

抜けた羽が由愛の手に落ちたのを見て、上に戻った。

「たっただいまー」

「ただいまじゃねえよ。何人間に姿みられてんだよ」

「なに、見てたの？ 覗き」

「覗きじゃねえよ。てめえが仕事しねえからだろうが。それとこれ、どういうこった」

カイが見せてきたのは記録<sup>アルバム</sup>。

「てめえがやったる」

「だってえ、糸出てたし別にいいじゃん」

「だってじゃねえだろ……」

そんなカイを無視して下を見る。

「おお、付き合って数分なのにディープって。近頃の子はすごいねー」

「お前、あの糸が切れるって知ってて無理やりつなげただろ」

「んー？ 何のこと？」

「その上、お前の羽。ご丁寧に楔まで打ちこんで」

「何のことかなー」

\* . . . \* : . . . \* . . . \* : . . . \* : . . . \* : . . .  
\* . . . \* \* . . . \* : . . . \* : . . . \* : . . . \* : . . .  
. . . \* . . . \* \* . . . \* : . . . \* : . . . \* : . . . \*

「由愛。羽は？」

「あれ……どこいったんだろ」

どこいったんだろうねー……二人の胸で光ってるのは私の羽なんだけど。

(後書き)

三題嚙です。

このシアという神。すんごいだらけてめんどくさがりです。そして  
すんごいきまぐれです。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4572p/>

---

三題噺～雲、アルバム、人口の遊び

2010年12月12日19時40分発行